

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

あつまグリーン・ツーリズム推進プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道勇払郡厚真町

3 地域再生計画の区域

北海道勇払郡厚真町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

厚真町は、太平洋に面する農村地帯で、苫小牧市、安平町、むかわ町など2市3町に隣接している。夕張岳から太平洋を貫流する厚真川のほぼ全域を町域としていることから、南北に32.5kmと縦に長い地形となっており、山林を中心とした「北部山岳ゾーン」、市街地や農地を中心とした「中央市街地・農業ゾーン」、港湾を中心とした「南部臨海ゾーン」の3地域に分かれている。気候は降水量・降雪量ともに少なく温暖で、北海道内では比較的過ごしやすい環境にある。

道都である札幌市からの日帰り観光圏であるほか、北の玄関口である新千歳空港からも自動車です30分の距離にあるなど、交通アクセスにも恵まれている。苫小牧港東港区の後背地には、北海道の電力需要の約3分の1を供給する北海道電力苫東厚真発電所や、国家・民間の大規模石油備蓄基地が立地するなど、物流・エネルギー拠点としての役割も担っている。

経済活動は、稲作複合経営を中心とした農業が主幹産業で、稲作の他には、そ菜、花卉、畜産のほか、栽培面積日本一を誇るハスカップなど、多様な品目の農畜産物を生産している。

観光振興については、道内有数のサーフィンスポットを有するほか、農業体験、田舎まつりなど各種イベントを展開している。とりわけ、本町の観光の主軸として推進しているグリーン・ツーリズムは、ハスカップ狩り、田んぼのオーナーなどの取組を進めている。今後は、厚幌ダム完成後（平成30年度）のレクリエーション活用や、埋蔵文化財・郷土資料等の活用などで、交流人口の増加につなげていくことが求められている。

4-2 地域の課題

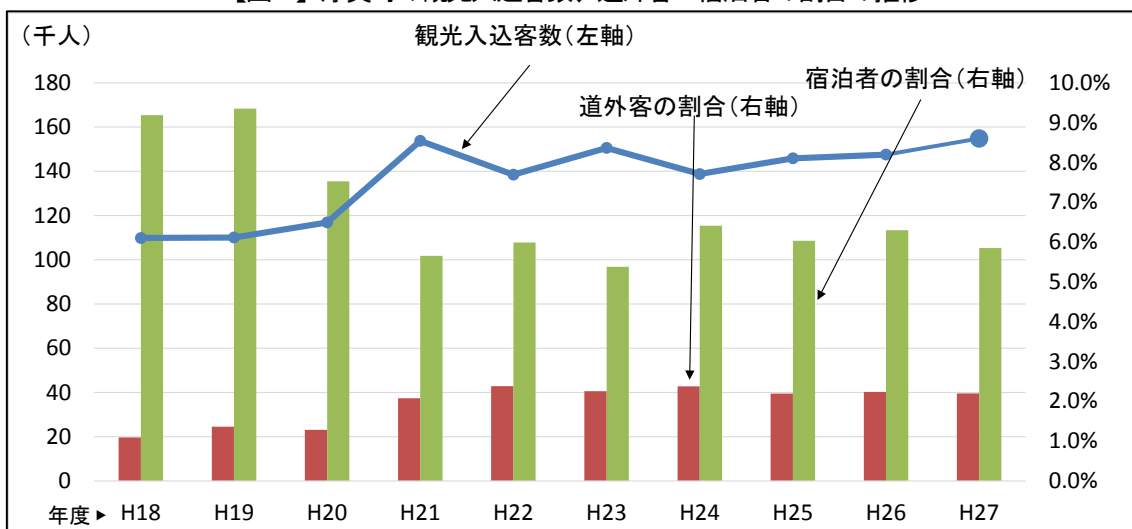
本町の観光入込客数は、平成20年度までは10～12万人程度で推移していたが、平成21年度からは本町の最大イベントである「あつま田舎まつり」の会場が厚真ダム周辺（郊外）から、市街地周辺に移設したことを要因に15.4万人（平成21年度）に大きく増加し、ここ数年は緩やかながらも増加基調で推移している。しかし、高い経済波及効果が期待される道外客・宿泊者数の割合は横ばい～減少基調で推移しており、観光入込客数の伸びに追いついていないのが現状である【図1】。

次に各月の観光入込客数（平成27年度）を見てみると、「あつま田舎まつり」開催時期（6月）に集中していることがわかる【図2】。また、各年度における観光入込客数における6月分の割合

を見てみると、年度ごとに一定のバラツキが見られるものの、近年は増加基調で推移している【図3】。

各種PRの強化などにより「あつま田舎まつり」の集客数は年々増加しているものの、宿泊滞在機能が弱く、全国的に有名な観光資源が少ないため、道外客・宿泊者の増加につなげていない。以上のことから、①「あつま田舎まつり」以外の観光コンテンツの拡充、②宿泊滞在機能の強化、の2点が本町の観光振興施策上の課題として挙げられる。

【図1】厚真町の観光入込客数、道外客・宿泊者の割合の推移

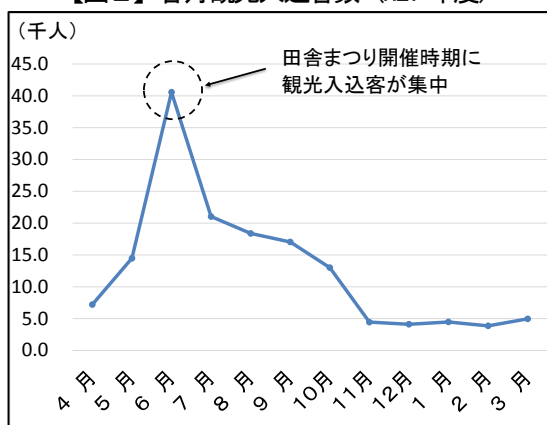


(注1) 道外客の割合および宿泊者の割合は、観光入込客数の内数。

(注2) H22 から新基準により集計しているため、単純比較できないことに留意が必要。

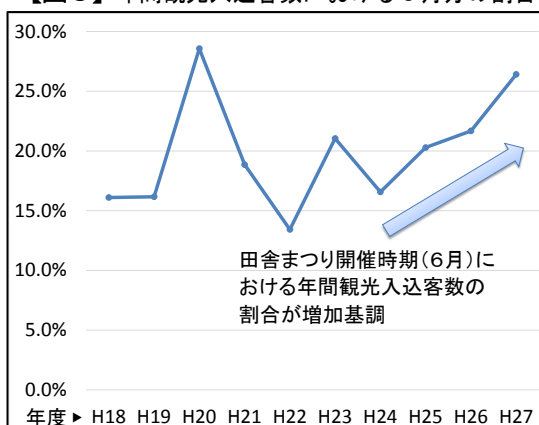
(出典) 北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

【図2】各月観光入込客数 (H27 年度)



(出典) 北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

【図3】年間観光入込客数における6月分の割合



(注) 本指標は、各年度における6月の観光入込客数を、年間入込客数(総数)で除したものである。

(出典) 北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

4-3 目標

①観光コンテンツの少なさ、②宿泊滞在機能の弱さ、の2点の課題の解決に向けて、本町の魅力である田園風景、道内有数のサーフィンスポットといった、多様な自然環境を活かしたグリーン・ツーリズムの取組を更に加速させる。

具体的には、現在行っているハスカップ狩り、田んぼのオーナー、芋掘り体験等の体験コンテンツの更なる充実を図る。また、ハスカップを活用した特産品開発などによるファームイン・ファームレストランの整備に向けた経営支援、農畜産物直売所、農畜産物加工施設、クラインガルテンなどの農業体験機能の整備を推進する。

宿泊機能の強化に向けては、本町の宿泊施設「こぶしの湯あつま」の大改修（平成30年度）のほか、農家民宿の整備に向けた検討を行う。

以上のソフト・ハード両面からの取り組みで、本町における観光資源の底上げをし、交流人口の拡大を図ることを目標とする。

【数値目標】

事業	あつまグリーン・ツーリズム推進プロジェクト			年月
	KPI	観光入込客数	うち道外客	
申請時	154.9千人	3.4千人	9.0千人	H29.3
初年度	160.0千人	3.8千人	10.2千人	H30.3
2年目	165.0千人	4.0千人	10.7千人	H31.3
3年目	170.0千人	4.1千人	10.9千人	H32.3

(注) 申請時のKPIは平成27年度末時点のもの。

(出典) 北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

観光資源の底上げによる交流人口の拡大を図るため、首都圏の子どもを対象とした自然体験の場の提供のほか、グリーン・ツーリズム関連のコンテンツ拡充、誘致体制の確立に向けた検討を行う。また、町内の宿泊施設である「こぶしの湯あつま」の大規模改修、古民家の移築再生を行うことによって、宿泊・滞在機能の強化も図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：

【A2007】

(1) 事業名：あつま子どもグリーン・ツーリズム事業

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

目的：厚真町の地域資源である多様な自然環境を活用し、日常生活で自然と触れ合う機会の少ない都会の子どもたちに自然体験の場を提供することで、「あつまファン」を獲得する。子どもたちを通じて、都会にはない町の魅力を

発信することにより、厚真町におけるグリーン・ツーリズムの推進と交流人口の拡大を図る。

事業の内容： 首都圏の子どもを対象に、野菜の収穫体験や、牛の哺乳体験、環境保全林での基地づくり、サーフィン体験など五感を使い自然を感じられる体験プログラムを提供する。また、本事業の結果等を基に、体験プログラムの拡充等を行い、首都圏からのグリーン・ツーリズム関連ツアーの集客を促す。

体験プログラムの概要（案）	
対象者：	首都圏の子ども 40 名
期 間：	3泊4日
日 程：	1日目…厚真の特産品（ジンギスカン等）をバーベキュー形式で提供。夜はテントを立て宿泊し、参加者間の親交を深める。
	2日目…環境保全林で、枯れ枝等を使った基地づくりなど、自然に存在する素材を使って創意工夫する力を身につける。また、植物や昆虫観察を通じ、森の中で生きる生命の尊さを学ぶ。トウモロコシなどの野菜収穫体験、調理を通じ、食べ物への感謝を促す。
	3日目…牛の哺乳体験で生き物と触れ合うほか、廃用牛の命に関する講義で理想と現実の隔たりを感じてもらう。また、地域のサーファーの協力によるサーフィン体験を行う。
	4日目…3日間の振り返りを行う。

→各年度の事業内容

あつま子どもグリーン・ツーリズム事業

初年度）3泊4日の自然体験プログラムを1回実施。

(4) 地方版総合戦略における位置付け

「厚真町まち・ひと・しごと創生長期ビジョン・総合戦略」のうち「基本目標① みのり豊かなあつま」で、「グリーン・ツーリズムを中心とした観光振興の充実」が位置付けられており、重要業績評価指標である観光入込客数の目標（H26：15万人、H32：17万人）の達成に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（KPI（重要業績評価指標））

事業	あつま子どもグリーン・ツーリズム事業		年月
	首都圏からのグリーン・ツーリズム関連ツアーの集客数	あつま子どもグリーン・ツーリズム利用者数	
申請時	0人	0人	H29.3
初年度	70人	40人	H30.3

(6) 事業費

(単位：千円)

あつま子どもグリーン・ツーリズム事業	年度	H29
	事業費計	500
区分	報償費	25
	需用費	150
	委託料	200
	負担金補助金及び交付金	125

(7) 申請時点での寄付の見込み

年度	H29
法人名	ワタミ株式会社
見込み額 (千円)	500

(8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

(効果検証の方法・体制)

毎年度末時点におけるKPIを取りまとめたうえで、町内外の外部有識者での構成される「行政評価外部評価委員会」及び産官学からなる「まちづくり委員会」で事業の検証を行う。

【評価体制】 ①行政評価外部評価委員会：町民（移住者、農業、漁業）4名、地元金融機関支店長1名の委員5名 ＋アドバイザー（大学教授）の6名体制 ②まちづくり委員会：各分野における町内団体の長等の委員12名＋アドバイザーとして地元金融機関支店長1名＋大学教授の14名体制
--

(効果検証の時期)

平成30年6月頃に、上記「行政評価外部評価委員会」及び「まちづくり委員会」において、事業の検証を行う。

(公表の方法)

評価結果は、広報誌および町ホームページで公開する。

(9) 事業期間：平成29年4月～平成29年8月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) グリーン・ツーリズム推進事業

事業概要： 地域資源を活用したグリーン・ツーリズム関連の地域メニューの整備やグリーン・ツーリズム観光ツアー誘致体制の確立に係る経費（プロモーション等）を、厚真町グリーン・ツーリズム協議会に助成する。

実施主体： 厚真町

事業期間： 平成29年度～平成31年度

(2) 交流促進センター整備事業

事業概要： 町内の宿泊施設である「こぶしの湯あつま」の大規模改修を行い、観光・宿泊機能を強化する。

実施主体： 厚真町

事業期間： 平成29年度～平成30年度

(3) 古民家再生事業

事業概要： 厚真町開拓期の貴重な歴史遺産である古民家を再生移築し、新たな観光拠点とする（平成30年度までに1棟再生移築する計画）。

※平成28年度時点の実績：1棟再生移築済。現在は天然酵母を使用したパン屋が入居。

実施主体： 厚真町

事業期間： 平成29年度～平成30年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

毎年度末時点における KPI を取りまとめたうえで、町内外の外部有識者での構成される「行政評価外部評価委員会」及び産官学からなる「まちづくり委員会」で事業の検証を行う。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

毎年6月頃に、上記「行政評価外部評価委員会」及び「まちづくり委員会」において、事業の検証を行う。

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

評価結果は、広報誌および町ホームページで公開する。